

君を名譽會員に推薦致しました。

第十三回の講演大會は昨年10月滿洲大連市に於いて滿洲冶金學會と聯合して催しました、講演大會及見學大會には内地より豫想外多數の參加者がありまして、委員長以下委員の至れり盡せりの御盡力並見學各所の厚き御配慮に依りまして一同が極めて有益なる見聞を得ましたのみならず、愉快なる旅行を致しましたことは誠に感謝欣幸に堪へぬ次第でございます。會務報告に付きまして私より申し上げることはそれだけであります。御質問でもありますれば…別に御質問ございませぬければ次の議事に移りたいと存じます。

ロ、昭和九年度收支決算報告

○議長(水谷叔彦君) 次は九年度收支決算報告でございます。是も極く必要な點だけ申し上げます。收支決算に於きまして、収入は會費並廣告料に於て豫算より著しく増加いたしました、會費の増額があり、又廣告料に付きまして事務の方の係りの非常な盡力に依りまして斯う云ふ結果を得ました。支出に於て俸給及手當の欄で編輯事務の爲め増加を致しました結果茲に増加を致しました。それで結局5,777圓の収入超過となつて居ります。申し上げることは是だけであります、御質問でもございましたら…

「異議なし」と呼ぶ者あり

○議長(水谷叔彦君) それでは御承認を得たものと認めまして次の議事に移ります。

ハ、昭和十年度收支豫算報告

○議長(水谷叔彦君) 議事の「ハ」昭和十年度豫算であります。是は前年度及其他の前例を参照しまして成るべく確實なるものを理事會に於て編成致しまして評議員會にお諮りをしたものでございます。収入豫算が2萬9,330圓、支出は豫備費590圓を含めまして同じく2萬9,330圓であります。申し上げることは是れだけでございます、御異議はございませぬか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○議長(水谷叔彦君) それでは次の財産目録に付て依博士、香村博士、服部博士記念資金はお手許に差上げてあります別表の通りでありまして、特に御説明を致しませぬ。唯九年中には債券の多少異動がありましたことと銀行や振替口座等に意外の遊資がある様に見えますが債券の償還されたものも入れてあります、これは目下インフレーションの結果債券は騰貴して居り之を買つても利益がありませんから此内經費の幾分を残して不日信託にすることになつて居ります何卒御諒承を願ひます。私から申し上げますことは是れだけであります、御質疑も御異議もございませぬか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○議長(水谷叔彦君) 御承認を得たものと存じます。

ニ、任期満了評議員(半数)改選(投票開票)

○議長(水谷叔彦君) それでは先刻申し上げました評議員の半数改選が出来ましてございませぬから、開票したる結果を御報告申し上げます。之は御氏名を讀み上げることを省略しますが、評議員會推薦の候補者全部大多數得點を以て御當選になりました次第でございます、御報告申し上げます。(拍手起る)

當選評議員氏名

磯村豊太郎君 一色 虎兒君 石川登喜治君 石原寅次郎君
井上禧之助君 井上匡四郎君 井上 順三君 西野憲之助君
二階堂行健君 本多光太郎君 戸村 理順君 大河内正敏君

渡邊 義介君 桂 弁三君 金原 信泰君 金子 恭輔君
景山 齊君 吉田 豊彦君 堤 正義君 向井 哲吉君
室井嘉治馬君 鶴瀨 新五君 松本健次郎君 松田貞治郎君
鮎川 義介君 三輪 時雄君 白石元治郎君 島 安次郎君
島岡亮太郎君 末兼 要君 以上

○議長(水谷叔彦君) 是で議事は終了しました。(拍手起る)

昭和九年度事業狀況

イ、昭和九年度會務報告

(昭和8年3月1日至昭和10年2月末日)

1) 集 會

Table with columns: 通常總會, 理事會, 評議員會, 服部博士資金委員會, 編輯委員會, 講演會, 大會, 研究部會. Values: 1, 12, 2, 1, 12, 1, 2, 1

2) 會員異動

Table with columns: 名譽會員, 維持會員, 贊助會員, 正會員, 准會員, 計. Rows: 入會者, 退會者, 死亡者, 増減. Values: 5(25口)4, 1(22口)7, 1, 3, 23, 43, 12, 6, 18, +5(+3口)-3, -3, -2, +96, +93

備考 イ、維持會員の變動は製鐵合同成立し、製鐵所、三菱製鐵、釜石鐵山、輪西製鐵、富士製鋼、東洋製鐵、九州製鋼會社の退會となり更に下記の通り加盟せり。

更新加盟

日本製鐵株式会社 22口 輪西鐵山株式会社 1口
釜石鐵山株式会社 1口 三菱製鐵株式会社 1口

- ロ、贊助會員より名譽會員に推薦… 3名
ハ、正會員より名譽會員に推薦… 2名
ニ、准會員より正會員に轉更… 2名
ホ、改姓名… 5名
ヘ、死亡者氏名

評議員 正會員 今岡純一郎君、永安晋次郎君
正會員 奥村千吉君、長谷川正五君、福地信世君、佐藤壽雄君
河合盛雄君、岩井興助君、孕石元照君、斯波忠三郎君
馬庭律夫君、小芝元吉君

准會員 吉田藤助君、八丁利夫君、生馬善三郎君、武市直一君
中島禮之君、小川健一君

以上十八氏を衷ひたるは痛惜の至りなり、猶以上諸氏の計に接しては直ちに甲詞を呈し哀悼の意を表せり。

3) 會員總數

Table with columns: 名譽會員, 維持會員, 贊助會員, 正會員, 准會員, 計. Rows: 昭和十年二月二十八日現在, 前年同期比較. Values: 18(56口)31, 15, 769, 880, 1,713, +5, -3, -3, -2, +96, +93

4) 會誌發行及印刷物

イ、本會々誌「鐵と鋼」は第二十年第三號より二十一年第二號迄毎月發行せり。

ロ、商工省鐵山局編集「製鐵業參考資料」を私費印刷發行許可を受け「鐵と鋼二十一年附録」として會員全般へ頒布したり。

ハ、第十二、第十三回兩講演大會に際しては其講演大要及前刷を作製し出席者へ頒布せり。

5) 處務事項

- 1、任期満了會長、理事、評議員半数の改選を昭和9年4月3日開催の第十九回通常總會にて行ひたり。
- 2、服部博士記念資金取扱委員任期満了に付き改選を行ひたり。
- 3、本會第十三回講演大會並に見學大會を滿洲冶金學會と聯合開催に決定す。
- 4、工學博士蒔田宗次氏を昭和9年7月1日より編輯委員兼委員に囑託す。
- 5、工政會に於て工學全書編纂計畫を樹つるに當り其編纂顧問に本會々々長野博士を推薦し來り承諾せり。
- 6、日本工學會理事長長男雷斯波忠三郎君薨去に際しては弔詞を呈し花輪を贈り哀悼の意を表せり。
- 7、日本工學會理事長補缺選舉あり、工學博士眞野文二君當選せり。
- 8、内閣資源局用語統一調査會調査委員1名本會へ要求あり本會より次の通り推薦す。  
用語統一調査委員 本會理事 工學博士 吉川 晴十君
- 9、日本工學會より昭和11年に開催の第三回工學大會開催準備委員本會より2名要求あり次の通り推薦す。  
第三回工學大會開催準備委員  
本會理事 工學博士 水谷 叔彦君  
委員 〃 蒔田 宗次君
- 10、鐵と鋼誌へ上掲の論文原稿注意條項を改正し會誌毎號へ會告する事を決定す。
- 11、昭和10年2月25日開催の評議員會に於て昭和10年4月2日を期し本會創立第20周年記念事行舉行を決議す。
- 12、毎年度の本會事業報告は東京府廳を經文部大臣へ報告し居れり。

6) 調査事項

- イ、昭和9年4月2日第10回研究部會を開催し電氣製鋼爐の操業並に構造の改善を要すべき點如何の問題に付き第二回討議を行ひ其記事を鐵と鋼第二十二年第二號へ上載す。
- ロ、商工省臨時産業合理局工業品規格統一調査會より照會の次の事項に對して其都度役員會に於て審議の上回答せり。  
(1) 鐵鑄中の硫黄及銅分析方法規格案  
(2) 鐵鑄中のチタン及クロム分析方法規格案  
(3) 鐵及鋼の熱處理に關する術語の説明規格案  
(4) 鐵鑄中のアルミナ分析方法規格案  
(5) 鐵鑄中のライム分析方法規格案  
(6) 鐵鑄中のマグネシヤ分析方法規格案  
(7) 肌燒鋼規格案  
(8) ニツケル鋼及ニツケルクロム鋼兩規格案の改正案  
(9) マンガン鑄石鐵分析方法並マンガン鑄石珪酸分析方法規格案  
(10) マンガン鑄石マンガン分析方法規格案

ハ、工學用語統一調査會に於ける調査は繼續中

7) 表彰

- イ、服部賞牌並に服部賞金贈呈、昭和9年4月3日本會第十九回通常總會に於ける受領者次の通り(鐵と鋼第二十二年第四號參照)  
服部賞牌受領者 八幡製鐵所技師 工學士 山岡 武君  
服部賞金受領者 (五十音順)  
八幡製鐵所技師 加藤 孝治君  
八幡製鐵所宿老 齋藤 新一君

- 日本鋼管株式會社技手 砂澤 彌平君  
三菱長崎造船所技師 中村 道方君  
日本特殊鋼合資會社技師 永澤 清君  
陸軍技手 寺門 茂君  
東北帝國大學金屬材料研究所囑託工學士 渡邊 直行君  
ロ、香村賞牌贈呈 昭和9年10月8日大連市オマトホテルに開催の講演大會に於て株式會社昭和製鋼所取締役銑鐵部長工學博士梅根常三郎君へ贈呈せり(鐵と鋼第二十二年第十號參照)
- ハ、名譽會員推薦 昭和10年2月25日開催の評議員會に於て本會定款第六條に依り次記5氏を名譽會員に推薦せり。  
名譽會員 (五十音順)  
工學博士 河村 曉君 工學博士 鹽田 泰介君  
法學士 白石元治郎君 工學博士 牧田 環君  
獨國理學博士 向井 哲吉君
- 8) 圖書寄贈受付(交換を含む) 書籍 64部 月刊誌 62種
- 9) 講演題目及講演者氏名  
イ、講演會 昭和9年5月10日 學士會館に於て  
製鐵所熱經濟に就て フランツ・コフラー  
ロ、第十二回講演大會 昭和9年4月3日 帝國鐵道協會々館に於て  
1、弧光式電氣爐鋼中の窒素並にガーバイドスラグの脱炭性に就て 吳海軍工廠製鋼部 工學士 早矢 仕功君  
2、白銑鑄鐵の脱炭に就て(第2報)  
戸畑鑄物會社冶金研究所 理學士 内藤 逸策君  
3、特殊鋼材の疲勞破壊並に衝擊破壊に於ける「切込み」の影響に就て 日本特殊鋼會社技師 玉置 正一君  
4、クロムモリブデン鋼の成分と質量效果に就て  
陸軍科學研究所 砲兵大佐 工學士 尾藤 加勢 士君  
陸軍技師 工學博士 石田 四郎君  
5、平爐作業能率増進の一考察  
八幡製鐵所技師 工學士 吉川 平喜君  
6、木炭銑の性質に就て  
戸畑鑄物會社若松工場 工學士 宮下 格之助君  
7、銑鐵爐にて低炭素銑製造考察  
八幡製鐵所技師 工學士 谷口 光平君  
8、純銅砂型鑄物の研究 芝浦製作所研究所 澤井 寛一君  
9、各種パーライト鑄鐵の機械的性質と其の耐磨耗性  
神戸製鋼所技師 理學士 三浦 三索君  
10、縁付鋼塊に於ける氣泡の壓着性  
八幡製鐵所技師 工學士 小平 勇君  
11、電弧式電氣爐自動電極調整裝置 芝浦製作所 黒河内 敏君  
12、酸性平爐に依るニツケル合金鋼の精鍊  
日本ニツケル情報局技師 ドクトルオブサイエンス 藤原 唯義君  
13、鑄鐵の生長に就て  
戸畑鑄物會社技師 理學博士 菊田 多利男君  
14、ハーネマン金屬研究所製マルテンサイト活動寫眞の紹介  
旅順工科大学助教授 工學士 大日方 一司君  
15、緩徐な冷却速度を與へる二三の燒入液に就て  
旅順工科大学助教授 工學士 大日方 一司君  
高瀬 孝夫君  
16、二三のコバルト合金に就て  
東京高等工藝學校教授 橋本 宇一君  
17、鑄造用輕合金に對するバナヂウムの影響  
三菱航空機會社名古屋製作所技師 理學士 岡田 俊一君

- 18、鐵—ニッケルアルミニウム系平衡状態圖  
 東北帝國大學助教授 工學博士 武田修三君  
 工學士 八巻信郎君
- 19、微量のマグネシウムがアルミニウム亜鉛系の共折變態に及ぼす影響に就て  
 九州帝國大學教授 工學博士 今井弘君
- 20、鑄鐵アルムコ鐵及鋼が水中に於ける初期點蝕現象と不働状態との關係に就て  
 南滿洲鐵道株式會社中央研究所 日下和治君
- 21、壓延鋼材の燒鈍效果に及ぼす炭素並に滿俺の影響  
 八幡製鐵所技師 工學士 城正俊君  
 ハ、日本鐵鋼協會第十三回、滿洲冶金學會第七回聯合講演大會  
 昭和9年10月8日大連市ヤマトホテルに於て
- 1、本溪湖に於ける低磷銑(純銑鐵)の製造に就て  
 本溪湖煤鐵公司製鐵科長(鐵鋼滿治會員)  
 工學士 井門文三君
- 2、昭和製鋼所の高爐設備及作業に就て  
 昭和製鋼所銑鐵部(鐵鋼滿治會員)工學士 淺輪三郎君
- 3、銑鐵爐の壽命と操業法  
 日本製鐵株式會社兼二浦製鐵所 工學士 松本與三郎君
- 4、八幡製鐵所に於ける銑鐵爐瓦斯の利用に就て  
 日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師 白石幾次君
- 5、酸性鹽基性平爐製鋼に伴ふ熔滓の粘性變化に就て  
 (齋藤大吉博士代講)大阪帝國大學助教授  
 工學士 松川達夫君
- 6、電氣製鋼實驗の研究  
 三菱重工業株式會社長崎造船所 工學士 中村道方君
- 7、歐米に於ける傾注式平爐及其の作業と八幡製鐵所に於ける現況  
 日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師
- 工學士 松原武三郎君
- 8、鑄鐵の鬆に就て(後報) 新潟鐵工所技師 松浦春吉君
- 9、高温高压汽罐用鋼管の腐蝕に就て  
 住友伸鋼管株式會社技師 理學士 絹川武良司君
- 10、ニッケル合金鋼の鍛練上考慮を要すべき二三の點に就て  
 日本ニッケル情報局 Dr.Sc 藤原唯義君
- 11、銅、アルミニウム珪素三元系合金の平衡状態圖に就て  
 京都帝國大學工學部探鑛冶金學教室  
 工學士 久恒中陽君
- 12、デュラルミンの時効硬化の一時的中止に就て  
 三菱重工業株式會社名古屋航空機製作所技師  
 工學士 池田傳君
- 13、マグネシウム、カドミウム系を基礎とする多元系輕合金の研究  
 旅順工科大学(鐵鋼滿治會員) 工學博士 大日方一司君  
 滿洲化學工業株式會社(滿治會員) 萩谷正巳君
- 14、鋼の低温度脆性に就て  
 日本特殊鋼合資會社社長 工學博士 渡邊三郎君  
 同社技師 永澤清君
- 二、日本鐵鋼協會、滿洲技術協會聯合通俗講演會 昭和9年10月7日大連市東公園町、滿鐵協會會館に於て
- 1、世界に於ける本邦鐵鋼業の地位  
 社團法人 日本鐵鋼協會會長 工學博士 野田鶴雄君  
 日本製鐵株式會社常務取締役
- 2、最近數年間に於ける主要金屬の價格變動と需給の關係  
 京都帝國大學名譽教授 工學博士 齋藤大吉君
- 3、鐵鋼業より見たる日滿統制經濟の意義  
 日本鐵鋼協會 滿洲冶金學會聯合大會實行委員長  
 株式會社昭和鐵鋼所社長 工學博士 伍堂卓雄君

ロ、昭和九年度收支決算表

(自昭和九年三月一日 至昭和十年二月末日)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	金額
維持會員會費	5,600'00	會誌印刷費	9,822'25
正會員會費	7,346'60	版類製作費	797'35
准會員會費	6,820'35	別刷印刷費	685'65
入會金	211'00	製鐵業參考資料印刷費	869'26
印刷物分讓料	1,727'62	原稿料	308'42
廣告料	4,550'35	約東郵便料	434'99
公社債利子	2,320'13	俸給及手當	4,582'00
振替貯金利子	69'02	借室料	1,620'00
銀行預金利子	150'50	會合費	360'35
信託預金利子	350'59	工學會費	200'00
鐵鋼試料分讓料	1,902'45	事務費	2,834'89
雜收入	80'62	什器費	15'50
社債償還利得金	963'50	大會費	2,093'34
		鐵鋼試料	
		買入代金	1,651'20
		豫備金	44'80
		收支差引收入過	
		財産に繰入高	5,777'73
合計	32,092'73	合計	32,092'73

ハ、昭和十年度收支豫算表

(自昭和十年三月一日 至昭和十一年二月末日)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	金額
維持會員會費	5,600'00	會誌印刷費	10,000'00
正會員會費	7,000'00	版類製作費	900'00
准會員會費	6,500'00	別刷印刷費	700'00
入會金	200'00	製鐵業參考資料印刷費	600'00
印刷物分讓料	1,400'00	原稿料	600'00
廣告料	4,000'00	約東郵便料	500'00
公社債利子	2,160'00	俸給及手當	5,000'00
振替貯金利子	120'00	借室料	1,620'00
銀行預金利子	150'00	會合費	350'00
信託預金利子	600'00	工學會費	200'00
鐵鋼試料分讓料	1,500'00	事務費	3,000'00
雜收入	100'00	圖書費	20'00
		什器費	50'00
		大會費	2,000'00
		第二十周年記念	2,000'00
		事業試料	
		鐵鋼試料	1,200'00
		買入代金	
		豫備費	590'00
合計	29,330'00	合計	29,330'00

## 財 産 目 録

昭和十年二月末日現在 (増減欄の+は増-は減を示す)

摘 要	昭 和 九 年 二 月 末 日 現 在	昭 和 十 年 二 月 末 日 現 在	差 引 増 減
1 圖 書	276.00	276.00	—
2 什 器	1,152.00	1,152.00	—
3 有 價 證 券	48,870.84	46,671.34	- 2,199.50
	内 譯	内 譯	
東京電燈會社々債第七回丙	12,870.00	—	- 12,870.00
同物上擔保附社債る號	910.00	910.00	—
東洋拓殖債券	—	12,870.00	+ 12,870.00
山陽中央水電社債第六回ね號	5,880.00	—	- 5,880.00
北海道拓殖債券	9,965.00	9,965.00	—
京濱電鐵會社々債第四回は號	2,986.50	—	- 2,986.50
東京市電氣事業公債第四回甲	4,300.00	—	- 4,300.00
東京農工銀行債券151回	—	10,967.00	+ 10,967.00
日本興業銀行債券169回	9,965.00	9,965.00	—
帝國五分利公債せ號	949.50	949.50	—
(1) 帝國五分利公債甲る號	907.00	907.00	—
(2) " 2號	137.84	137.84	—
4 借 室 料 敷 金	405.00	405.00	—
5 振 替 貯 金 (基本金を含む)	8,682.08	11,287.55	+ 2,605.47
6 銀 行 預 金	1,298.79	3,264.19	+ 1,965.40
7 定 期 預 金	2,084.98	2,144.00	+ 59.02
8 信 託 預 金	6,725.10	10,075.69	+ 3,350.59
9 現 金	55.08	51.83	- 3.25
計	69,549.87	75,327.60	+ 5,777.73
別口(1) 服部博士記念資金			
帝國五分利公債ひ號	20,000.00	20,000.00	—
銀行預金	955.83	1,199.46	+ 243.63
計	20,955.83	21,199.46	+ 243.63
別口(2) 香村博士寄贈資金			
帝國五分利公債も號	20,000.00	20,000.00	—
銀行預金	1,023.93	1,715.01	+ 691.08
現 金	2.03	1.88	- 0.15
計	21,025.96	21,716.89	+ 690.93
別口(3) 俵博士記念資金			
144回東京府農工債券	5,000.00	5,000.00	—
銀行預金	—	151.91	+ 151.91
計	5,000.00	5,151.91	+ 151.91
總 計	116,531.66	123,395.86	+ 6,864.20

備考 摘要欄の有價證券中 (1) は會誌發行擔保金 (2) は約束郵便擔保金なり

服部博士記念資金收支決算表

(自昭和九年三月一日 至昭和十年二月末日)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	金額
前年度より繰越 (銀行預金)	955.83	賞牌製作費内拂	6.06
公債利子	1,000.00	賞金	700.00
銀行利子	19.60	賞状揮毫料	16.00
		受賞者招待費	20.00
		信託手数料	10.00
		郵便費	—
		筆耕料	20.82
		雑費	3.09
		收支差引残額 (銀行預金)	1,199.46
合計	1,975.43	合計	1,975.43

昭和十年度服部博士記念資金收支豫算

(自昭和十年三月一日 至昭和十一年二月末日)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	員數 金額
帝國五分利公債	20,000.00	賞金贈呈	10 1,000.00
銀行預金	1,199.46	印刷物	300 20.00
公債利子	1,000.00	委員會合費	15.00
預金利子	15.00	招待費	9 27.00
		信託手数料	10.00
		雑費	5.00
		公債	20,000.00
		銀行預金	1,137.46
合計	22,214.46	合計	22,214.46

香村博士寄贈資金收支決算表

(自昭和九年三月一日 至昭和十年二月末日現在)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金 (銀行預金)	1,023.93	賞牌製作費	324.70
公債利子	1,000.00	寫真代	8.00
銀行利子	28.18	印刷代	2.20
現金	2.03	賞状揮毫料	2.00
		雑費	3.5
		收支差引残額 (銀行預金及現金)	1,716.89
合計	2,054.14	合計	2,054.14

昭和十年度香村博士寄贈資金收支豫算

(自昭和十年三月一日 至昭和十一年二月末日)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	員數 金額
帝國五分利公債	20,000.00	香村賞牌並 附屬一式	1 306.60
銀行預金	1,716.89	雑費	15.00
公債利子	1,000.00	銀行預金	2,420.29
銀行利子	25.00	帝國五分利公債	20,000.00
合計	22,741.89	合計	22,741.89

俵博士記念資金收支決算表

(昭和九年三月一日 至昭和十年二月末日)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	金額
144回東京府 農工債券	5,000.00	10年度へ繰越	5,151.91
銀行預金	151.91		
合計	5,151.91	合計	5,151.91

昭和十年度 俵博士記念資金收支豫算

(自昭和十年三月一日 至昭和十一年二月末日)

収入之部		支出之部	
項目	金額	項目	員數 金額
東京農工銀行社債	5,000.00	俵賞金贈呈	2 200.00
銀行預金	151.91	委員會合費	15.00
社債利子	225.00	雑費	10.00
銀行利子	3.50	債券	5,000.00
合計	5,380.41	銀行預金	155.41
		合計	5,380.41

以上報告候也

昭和十年四月二日

社団法人 日本鐵鋼協會々長 工學博士 野田 鶴 雄

服部賞金、香村賞牌、俵賞金贈呈式

○理事(水谷叔彦君) 只今から服部賞金、香村賞牌、俵賞金の贈呈式に移ります。是等の賞を贈呈いたします方々のお名前並其理由はお手許に差出してあります書類に載つて居りますから時間省略の爲に改めて申し上げませぬが、受賞を致さるゝ各位が我が鐵鋼界にお盡しになりました功績に付きましてはそれぞれ資金取扱規則の定むる所に依りまして慎重に審議を致しまして決定を致したものでございます。茲に本會は此總會に於きまして皆様へ賞牌及賞金を贈呈しまして御貢献に對して表彰を致す次第でございます。受賞者各位へ特に野田會長より深厚なる祝意をお傳へ申上げるやうにと云ふこととございましたから添へて申し上げます。では是より贈呈式を施行いたします。

[服部賞金贈呈其都度満場拍手を以て祝意を表す]

○理事(水谷叔彦君) 服部賞は是で終りました、香村賞牌の贈呈式

に移ります。

[香村賞牌贈呈満場拍手祝意を表す]

○理事(水谷叔彦君) 俵賞金贈呈式に移ります。

[俵賞金贈呈満場拍手祝意を表す]

○理事(水谷叔彦君) 是で總會全部を終りました。[拍手]

午前 11 時 55 分散會

第五回服部賞金受領者推薦理由書

服部賞金受賞者 (五十音順)

本溪湖煤鐵公司製鐵科長 工學士 井 門 文 三君

理 由

君は大正 7 年 3 月九州帝國大學工學部冶金學科卒業後本溪湖煤鐵公司に入り同公司鑄鐵鑄造業に従事し獨特の原料に對し多年の研

究改良を行へる事尠からず就中3年前同公司多年の問題とされたる低磷鉄鐵の製鍊完成に多大の貢献をなせり、勿論本特殊鉄鐵は大倉鐵業會社により熱心企圖されし製品なるが故に廟兒溝産富鐵の磁選法低磷炭製造法、並に鑄鐵爐作業法等全工場を擧げて徹底的調査及研究を繰返したる結果に相異なしと雖も井門氏は製鐵科の主腦者として重大責務を帯び低磷炭の製造、低磷團鐵の製造並に鑄鐵爐作業に關し最も苦心努力し克く部下を激勵指導し、大正10年以來數回の試験を繰返し昭和7年英國へマタイト鉄鐵製造の目的を達し次で瑞典木炭鉄鐵同質品をも完成するに至れり、昨年以來軍需品製造工業殷盛なるに際し完全に輸入品を防壓し得るに至れり。

本製鍊技術改良の内容は元より優秀なる原料を有し之に適當に加工し得たるにあるも特に鑄鐵爐作業法は稀に見る同所獨特の方法に基けるものなり君は鉄鐵100に對し生ずる鐵滓量30の極限比を見出し必要量の珪石を装入し珪酸度及此鐵滓比の調節により装入物中磷の分配を適當にし所要の目的を達し得たるものにして鉄鐵中の磷、珪素含有に對しては最も同氏の苦心せる所なり。

炭炭鑄鐵爐による此種特殊品の製鍊は他に類例を見ざる所にして實地作業の改良進歩に貢献せるものと云ふべし依て服部賞金受領者たる資格充分なりと認む。

東海鋼業株式會社技師 井上 禧 治君  
理 由

同氏は長く前官立八幡製鐵所製條工場に勤務し東海鋼業株式會社の創立せらるゝや聘せられて其技師となり専ら其中型工場を擔任中電柱の構作上普通90度の山型鋼に代ゆるに60度の物を以てする事を得ば鋼材使用上の効率甚大なる可きを思ひ苦心慘澹遂に之を實行に移すことを得て忽ち世上の注意を喚起し電信電話用に將又高壓低壓の電力配送上に應用せられて全國に普及するに至れり、此60度山型鋼は其角度の關係によりカーバアの製作上にも相當の苦心を要し又歴延作業上に於て稍もすれば兩脚内に厚薄の不同を生ずる傾きあるも同氏は能く此等の困難を克服し實際上圓滑なる運轉をなし最も均整なる製品を市場に送り得し其絶大なる努力と60度角を採用せし着想は鋼材製作上の一進歩なりと思ふ、依て同氏は服部賞金受領者たる資格充分なりと認む。

日本特殊鋼合資會社技師 佐藤 政一君  
理 由

同氏は明治35年7月、東京高等工業學校卒業、直に海軍に奉職し築地造兵廠鑄造係として小型平爐の創設に際し其操業を擔當せるを始めとし吳海軍工廠に於て特殊兵器の製作設備並に實地操業に従事し又特殊鋼の鑄造を擔當す、此間大正7年特殊兵器の製作完成に依り賜賞せらる、大正15年招かれて株式會社日本製鋼所に入社し室蘭工場改良部長を命ぜられ製鋼作業の改良に従事す、昭和7年同社を辭し日本特殊鋼合資會社に入社し冶金關係設備の計畫及建設に従事し又鍛造課長として航空機用鍛造品、殊に重要な曲軸の製作を擔當して優秀なる成績を擧げ今日に至る、之を要するに同氏は吳在官以來前後五回に亘り歐米に出張して具に特殊鋼に關する技術を修鍊し多年本邦特殊鋼の製作に従事し作業上技術の改良發達に貢献する處尠からず、依て服部賞金受領者たる資格充分なりと認む。

東北帝國大學工學部助教授 工學博士 佐藤 知雄君  
理 由

氏は昭和2年東北帝國大學工學部金屬工學科卒業以來講師として又助教授として學生教養の傍物理冶金學の研究に従事し多くの有要

なる研究結果を發表せり、就中最重要なるは、鐵、セメント、硫化鐵系の平衡狀態圖及マンガンの添加による其の變化の二論文なりとす。鐵、セメント、硫化鐵系平衡狀態圖に就ては既に二三の研究あれども猶不十分なるを免れざりき、因て先づ鐵、硫化鐵系の二元狀態圖を検討し然る後鐵、セメント、硫化鐵系三元系の研究に入り熱分析に依て其の初晶點並に變態點を決定し顯微鏡的研究に依て冷却曲線上の諸變化の本性を推定し實驗結果と理論的考察とにより種々の切斷狀態圖、投射狀態圖並に總合狀態圖を構成し本系に起る種々の事實を明にせり、又マンガンの添加による鐵、セメント、硫化鐵系狀態圖の變化に就ては之に約0.5%、1.0%及2.0%のマンガンを添加せる三列の合金に就て熱分析を行ひ顯微鏡的研究と理論的考察とにより投射狀態圖並に切斷狀態圖を構成し此等の結果を比較してマンガンの添加による平衡狀態の變化を明にせり其の結果高炭素、高硫黃の鋼に於てマンガンの添加に依て脱硫の目的を達せらるゝは硫化物に富む融體がマンガンの添加に依て容易に上層に浮び上ることを得るによる又硫黃の存在による鋼の赤熱脆性がマンガンの添加に依て除去せらるゝは共晶溫度上昇のため加熱による粒間の鑄融起り難くなり又硫化物はマンガンの添加によりて低炭素、低硫黃の合金に於ても容易に球狀となり生ずるマンガンは硫化鐵よりも著しく粘性に富むによることを明にせり。其他同氏は純炭素鋼並に珪素鋼の變態點其他多數の諸研究を發表せり此等諸研究は何れも工業上並に學術上頗る有要なるものにして同氏は服部賞金受領者として充分の資格あるものと認む。

日本製鐵株式會社 八幡製鐵所宿老 白石 竹松君  
理 由

氏は明治37年5月八幡製鐵所に職工として入職、コツペイ、ハルデー爐、續いて40年より副産物採取式ソルバー爐に従事し、大正3年コツパース爐の築造に當りては築造より開始に至るまで中堅として活躍し、同7年朝鮮兼二浦のウイルプツテ爐の作業開始に當りては招かれて職工指導の任に當り、同9年及12年の兩回八幡の黒田式爐の開始並に平素の作業を監督し、同15年又招かれて本溪湖炭爐の開始に努力し、昭和3年より八幡洞岡炭爐築造に際し種々工夫をなし以て豫期の成績を擧ぐるを得たり。

斯く製鐵所の内外に於て30餘年終始一貫熱心に炭爐の築造並に操業開始の指導に當りたるのみならず一方常に炭の品質、瓦斯の得量、副産物の捕集に細心の注意を拂ひ又多數職夫の長として能く部下を統率し其献身的努力並に其技能は我が製鐵事業の改良發達に貢献する事多大なりと云ふべし依て服部賞金受領者たる資格充分なりと認む。

吳海軍工廠製鋼部々員  
海軍造兵中佐 工學士 武林 誠一君  
理 由

君は大正9年東京帝國大學工學部冶金學科を卒業し直に海軍造兵中尉に任じ吳海軍工廠製鋼部に職を奉じ主として酸性平爐鑄鋼作業を擔當し目下引續き平爐製鋼工場主任として兵器用高級鋼材の製造に従事せらる。兵器用高級鋼材の製造は製鋼作業中最も困難のものに屬し往々各種の缺點を生じ爲に使用に堪へざる不合格品となることあり、斯くては常に製造期限を遅延し作業計畫を攪亂するのみならず工場の製造能力を減退し國防上並に一般工業上極めて重大なる影響を及ぼすに至るものなり。而して之等缺點中所謂白點は最も悪性にして其の成因明かならず歐米に於ても未だ之が防止策の確立を見るに至らざる現状なり。

武林君は白點の成因を溶解作業並に鑄造作業の方面より研究し多年の経験と學理的推論とにより非常なる熱心と努力との結果同所製鋼作業の改良進歩に貢献せり、此研究の経過及結論は昭和5年9月日本鐵鋼協會第五回講演大會に於て發表し爾來此要領にて製鋼作業を續け優良なる鋼材を製造しつゝあり。

以上君の業績は高級鋼材製造技術の進歩發達に貢献したるものと云ふべく服部賞金受領者たる資格充分なりと認む。

株式会社川崎造船所製鋼工場  
薄板課主任 工學士 中島道文君  
理由

同氏は昭和4年3月京都帝國大學工學部探鑛冶金學科卒業後直に川崎造船所製鋼工場に入り専ら薄鋼板の冷間壓延並に熱處理作業に従事して今日に及べり、其間昭和5年特殊鋼板用冷間壓延機7臺の設置に従事し之が壓延作業を擔任して磨鋼板、各種深絞り用鋼板、航空機用鋼板、鐵兜用鋼板、特殊發條鋼板、其他の各種合金鋼板の壓延を爲し、且つ技術上最困難とせらるゝ此等特殊薄鋼板の熱處理法を苦心研究し以て安價にして優秀なる成品を斯界に提供す事を得せしめたり。

又昭和6年5月には三段冷間壓延機3臺昭和8年8月には四段冷間壓延機3臺を新設して夫々幅廣磨板及び長尺物特殊鋼板、深絞り用帶板の製作を完成したり。昭和6年1月以降電氣鐵板の壓延及び熱處理を、更に昭和9年6月には電氣鐵板に特殊元素を合金せしめて其の磁氣的性質を害する事なくして機械的性質を著しく改良するの研究を爲し是を完成したり、而して此等特殊鋼板を焼鈍するに當り吾國に行はれ居る普通の瓦斯焼鈍法を以て不満足なりとし電氣燒鈍爐13基を建設し更に進んでその完璧を期する爲昭和9年4月には防酸瓦斯發生機2基を設置して各種特殊鋼板の純白光澤燒鈍法に成功し電氣鐵板に最も嫌ふべき酸化被膜を防止し高級なる電氣鐵板を製出したり、要之同氏は最新式冷間壓延機並に熱處理設備の建設に従事し且是が作業を研究して幾多の困難を排し遂に優秀なる特殊薄鋼板の經濟的製作を成就せしめたるものにして斯界技術の進歩に貢献する處多大なり依て服部賞金受領者としての資格充分なりと認む。

日本製鐵株式会社兼二浦製鐵所  
作業部長 工學士 松本與三郎君  
理由

同氏は大正3年東京帝國大學鐵冶金科を卒業後直に三菱會社に入社し兼二浦製鐵所製鋼課長、製鋼工場長、製造課長を経て同所の日本製鐵株式會社に合併後同所作業部長として工場全般に亙る作業の監督指導の任にあり此間、歐米に出張して善く各國製鐵工場を視察し入所以來二十有餘年の間同所作業の改良發達上貢献する處尠からず。就中同所の原料鐵石たる褐鐵礦は頗る還元性に富み炭素析出による爐頂懸滯を生じ易く操業頗る困難なるに係はらず苦心研鑽の結果獨特の作業方法を案出し能く90%以上の褐鐵礦を使用して圓滑なる操業を繼續し同所鋼の聲價を發揮したるのみならず鑄鐵爐の壽命を延長し第一、第二鑄鐵爐共に、十有餘年の長期間使用に堪ゆることを得せしめたるは本邦に於ける異例とする處にして全く氏の苦心努力と部下に對する指導宜しきを得たる結果に外ならず、因に氏は昭和9年10月大連に於ける日本鐵鋼協會第十三回講演大會に於て以上の作業方法を發表したり。

又氏は大正10年特殊の鉄鐵精製爐と獨特の操業法とを考案して巧に鑄鐵爐鑄鉄を精製して低磷鉄、低磷白鉄、チルド鉄、等の特殊

鉄を自由に製造することに成功し殊に坩堝鋼の原料たる低磷白鉄並にロール製造用チルド鉄として最も好評を博せり。

以上同氏の業績は本邦製鐵技術の改良發達に貢献せるものと云ふ可く服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

日本鋼管株式會社製鋼掛主任 宮原信治君  
理由

同氏は大正3年3月東北帝國大學專門部冶金學科を卒業し同年3月日本鋼管株式會社に入社し鹽基性平爐による製鋼作業に盡瘁し今日に及べり、勤績二十有一年昭和7年製鋼掛主任に拔擢せられ孜々として倦まざること一日の如く本邦唯一の重油使用による平爐の製鋼法に對し、バーナー及爐形の改造に努力し爾來出鋼量の増加と鋼質の改良に躍進的の發展を遂げ特に昭和9年下半年に於ける25 吨平爐1基の出鋼量は3,895 吨に對し將に舊來の記録を突破し而も本年10月には1基平均4,539 吨に達するの好成績を示せり、以上の業績は服部賞金受領者として資格充分なるものと認む。

日本製鐵株式會社 八幡製鐵所技師 目黒斌君  
理由

君は大正7年3月米澤高等工業學校機械科卒業後直に官立製鐵所に入所引續勤務し現に當所工務部堂山鑄造工場主任たり。

大正8年堂山鑄造工場勤務となり爾來十有六年専ら鑄鐵ロール並に鋼塊鑄型の鑄造に従事し造型溶解及鑄入等各作業に互り其の能率を増進し製品の品質を向上せしめ同所製鋼及壓延作業の進展に寄與せし所尠からず殊に同所に於ては反射爐溶解の鑄鐵を以てしては困難なりしチルドロールの製作に精進し遂に大正12年7月初めて之が成功を見るに至り次で大正15年反射爐火床をロッキンググレート式に改め石炭消費量及精鍊時間を短縮し更に火床を傾斜式ロッキンググレート式とし大に燃料及労力の節約を圖り尙考案を進め全く独自の設計に基くロッキンググレート式を完成し之を15 吨反射爐に應用して優秀の成績を擧ぐるに至り爐容の増大と相俟ち今や同工場は1日平均サンドロール、チルドロール取交ぜ44 吨の鑄造を行ふの盛況に達し其の製品は獨り同所の増産計畫に懸念と支障なからしめたるのみならず新設計の反射爐は他の鑄造工場に於ても其の聲價を傳聞し之に倣ふもの漸く多きに至り本邦此種鑄造技術の改良進歩に貢献せしこと尠からず、以上の業績は服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

#### 第四回香村賞牌受領者

東京製鋼株式會社常務取締役 戸村理順君  
理由

氏は明治30年東京製鋼株式會社へ入社し専ら鋼索類の製造業務を監督し大正5年同社常務取締役に就任爾來任を重ねて今日に及べり、斯くて約40年に近き長年月に互り専心鋼索類の製造技術の改良進歩に努め其の間專賣特許及米國專賣特許4件、實用新案6件を受け製造作業上貢献するところ大なり、就中金屬線條熱處理爐と鋼線燒入装置の二發明は一新機軸を拓きたるものにして燃料重油を節約すること多く製品の品質向上に資する所大なりとす、其の販路は東洋諸國は勿論南洋方面より遠く濠洲、亞弗利加、南北亞米利加及地中海沿岸諸國に互れり、依て香村賞牌受領者たるの資格充分なるものと認む。

#### 第一回俵賞金受領者

本會俵博士記念資金取扱規則に依り鐵と鋼第二十年自第一號至第

十二號中學術上並に技術上優秀論文著者詮衡委員會を開き慎重審議の上次記二氏を選定し評議員會の決議を経て茲に俵賞金贈呈式を擧ぐるは欣幸とする處なり。

## 記

## 1. 學術上優秀論文題目及著者

鑄鐵の生長に就て (鐵と鋼第二十年第八號)

菊田多利男君

## 1. 技術上優秀論文題目及著者

平爐作業能率増進に關する一考察 (鐵と鋼第二十年第十號)

吉川平喜君

以上報告候也 日本鐵鋼協會々長 野田鶴雄

## 日本鐵鋼協會創立第 20 周年記念祝賀式狀況記事

日時 昭和 10 年 4 月 2 日 (火) 午後 2 時 40 分

會場 東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會々館二階大講堂

定刻の鈴振と共に會員一同着席と同時に今回選彰の製鐵功勞者等胸間に薔薇白花を飾り特設の席に着し又本日祝賀を表さるゝ爲め御臨席の商工大臣代理並に日本工學會理事長眞野博士は委員の案内にて壇上設けの席に着かるゝを待ちて俵委員長開會を宣し次の如く式辭を述べらる。

○委員長(俵 國一君) 是より日本鐵鋼協會創立第 20 周年祝賀式を擧行いたします、就きましては私から式辭を申述べます、會長が御病氣の爲に私に祝賀式委員長としての代理をせよと云ふことで茲に立ちました次第であります。

我が協會は本年を以ちまして目出度く第 20 周年を迎へた次第で、益々隆盛の域に達しますことは御同慶至極に存ずる次第であります、曩に第 10 周年の時に於きましては秋期をトして 4 日間に亘つて大會を開きました、所が近頃は春秋 2 期に亘りまして此講演大會を開きますので、講演大會の中に含ませて此第 20 周年の記念祝賀式を催すことになつた次第であります、此催しに付きまして態々祝賀の意を述べられる爲に大臣閣下の御臨席を仰ぐ都合でございましたが、丁度御病氣で其の代理として參與官がお出でになりますし、又工學會の理事長の眞野博士が態々御臨席になつて居るのであります、深く感謝する次第であります、今回も前回の例に倣ひまして製鐵功勞者の表彰式、及故製鐵功勞者の追悼會を開きますと共に、又本協會の要録をお配りをして本會の歴史を尋ね、其外「鐵と鋼」の 10 年間の總目錄及最近 10 年間の

製鐵鋼業に關する學術技藝の進歩に關する論文を集めて發表することになつて居ります、何れ是は其中にお手許に差上げることが出来る次第であります、尙ほ一言お願いしたいのは引續き築地本願寺で追悼會があります、是非それには御臨席を得まして一層の光彩を添へたいと思つて居ります。

只今から製鐵功勞者に對しまして賞牌を贈呈いたします、今回も前回と同様に理事會、評議員會の議を経まして慎重に審議されて 4 名の製鐵功勞者を得たのであります、是等の方々の御功績は刷物としてお手許にあります通りで、或は銕鑪爐又は壓延工場、兵器工場或は特殊鋼の製造に何れも多大の貢獻を爲されたのであります、其他に本協會の爲にも御盡力になりまして、本邦製鐵鋼業の今日ある基を築かれた方々であります、斯かる榮譽ある方々を茲に表彰することの出來ましたのは皆さんと共に本協會の最も光榮とする所であります。

引續き賞牌を贈呈いたします。

〔贈呈式〕

選彰製鐵功勞者河村博士、景山工學士、水谷博士、渡邊博士等五十音順にて委員三島博士の案内により登壇、俵委員長各氏に表彰狀と共に製鐵功勞賞牌を鄭重に贈呈す、其都度滿場拍手を以て滿腔の慶意を表せり。

〔祝詞朗讀〕

○委員長(俵 國一君) 是で贈呈式を終りました、是から祝詞に移ります、商工大臣代理の祝詞。(別掲)

○商工大臣代理 大臣御病氣中ですので代讀を致します。

### 町田商工大臣祝辭 (參與官代讀)

本日茲に日本鐵鋼協會創立第二十周年記念大會ヲ開催シ併セテ製鐵功勞者表彰ノ式典ヲ擧ゲラルハニ方リマシテ一言祝辭ヲ申述ブル機會ヲ得マシタコトハ私ノ欣幸トスル所デアリマス。

惟フニ製鐵鋼業ハ産業上並國防上最モ重要ナル基礎工業デアリマスコトハ更メテ申迄モナイ所デアリマス。我國製鐵業ハ多年當業者ノ努力ニ依リマシテ軌近長足ノ進歩ヲ遂ゲマシタコトハ大ニ意ヲ強フスル所デアリマス。日本鐵鋼協會ハ夙ニ斯界ノ中堅トシテ鐵及鋼ニ關スル學術經濟等ノ事項ニ付調査研究ニ努メ業界今日ノ隆盛ヲ見ルコトヲ得マシタコトハ實ニ業界ノ爲メノミナラズ邦家ノ爲メニ慶賀ニ堪ヘザル所デアリマス。

是レ固ヨリ關係各位ノ努力ノ賜デアリマシテ本日茲ニ斯界ノ功勞顯著ナル方々ヲ選彰セラレマシタコトハ寔ニ意義深キ措置ト信ズルノデアリマス。今ヤ内外共ニ多事ノ秋ニ方リマシテ此ノ榮譽ヲ擔ハレマシタ諸君ハ今後一層奮勵セラレテ斯業ノ進歩發達ニ一段ノ努力ヲ拂ヒ國運ノ隆昌ニ貢獻セラレシコトヲ切望シテ已マザル次第デアリマス。

昭和十年四月二日

商工大臣 町田 忠 治

○委員長(俵・國一君) 是から工學會理事長の眞野博士に御願いたします。

### 日本工學會理事長祝辭



社団法人日本工學會ヲ構成スル社員タル社団法人日本鐵鋼協會ハ創立茲ニ二十周年ヲ迎ヘラレ本日記念祝賀式ヲ催サルルニ至リマシタコトハ日本鐵鋼協會ノ爲慶賀ニ堪ヘザル所デアリマスノミナラズ我國工業界並ニ學術界ノ爲延イテハ吾々日本工學會社員一同ノ爲メニモ大ニ祝福スベキ盛事デアルト存ジマス。日本鐵鋼協會ノ生レマシタノハ他ノ學會ニ較ベラスト寧ロ新シイ方デアリマスガ其ノ創立ノ時期ハ恰モ世界大戰ノ初期デアリマシテ我國力ノ充實ニ最モ力ヲ致スベキ秋デアリマシタ。然ルニ當時我國ノ鐵鋼業ハ未ダ搖籃時代ノ域ヲ脱シテ居リマセズ需要ノ大部ヲ輸入品ニ仰イデ居タノデアリマスガ日本鐵鋼協會ハ創立匆々斯界ノ權威者ヲ聚メ斯業ヲ誘掖開拓ニ努メ或ハ斯業ニ關スル研究調査ノ結果ヲ公表シ或ハ斯業ノ保護獎勵及自給策等ニ關スル意見ヲ建白スル等目覺シキ活動ヲ斷エズ續ケラレタノデアリマス。今日我國ノ鐵鋼業ハ顯著ナル發達進歩ヲ遂ゲ其ノ製品ノ品質ニ於テ先進國ノ夫レニ毫モ遜色ヲ見ズ又其ノ生産能力ニ於テ殆ド自給ノ域ニ達シ將ニ輸出國トシテ世界ノ市場ニ活躍セントシツアルノハ固ヨリ國運ノ然ラシムルトコロデアリマスガ亦日本鐵鋼協會ノ斯界ニ盡サレマシタ努力ノ大ニ與ツテ力アツタコトヲ否ムコトハ出來マセン。而シテ日本鐵鋼協會ガ斯カル偉大ナル貢獻ヲナサレタ其ノ裏面ニハ會員中終始一貫斯業ノ發展ニ盡瘁セラレタ特志篤行ノ士ガアツタカラデアリマシテ夫等ノ諸士ノ功績ニ對シテハ吾々ハ滿腔ノ謝意ヲ表スルニ吝ナラザルモノデアリマス。

日本鐵鋼協會ガ曩ニ創立十周年記念式典ニ際シ製鐵功勞者八名ヲ表彰セラレマシタガ本日ノ式典ニ於テハ亦更ニ四名ノ功勞者ヲ表彰セラレマシタコトハ洵ニ時宜ニ適シタ企デアルト存ジマス共ニ私ハ表彰セラレマシタ四氏ニ對シテ深く慶賀ノ意ヲ表スルモノデアリマス。今ヤ我國ハ未嘗有ノ非常時ニ遭遇シ鐵鋼業モ亦益々振興ヲ要スルノ秋デアリマス。私ハ日本鐵鋼協會ガ愈々隆盛ニ赴カレ國運ノ發展ニ寄與セラレンコトヲ希ヒマス共ニ今後或ハ創立 25 年、50 年、100 年祝典ガ舉ゲラレマス様ナ際ニハ更ニ多數ノ功勞者ガ輩出セラレンコトヲ祈ツテ止ミマセン。茲ニ一言蕪辭ヲ述ベテ祝辭ト致シマス。

昭和十年四月二日

社団法人日本工學會理事長 工學博士 眞野 文 二

○委員長(依國一君) 是で祝賀式を終ります、重ねて御願しますが、 御出席を願ひます。(拍手起る)  
是から引續きまして築地の本願寺で追悼會を行ひますからどうか 午後 2 時 57 分終了す。

### 故製鐵功勞者並ニ物故會員追悼會に於ける追悼之詞

日本鐵鋼協會會長の弔詞 (依 委員長代讀)

本會第二十周年記念會ヲ舉行スルニ方リ故製鐵功勞者及物故會員ノ追悼會ヲ營ム、本會會員一同ヲ代表シ故淺野總一郎君、故工學博士大石源治君、故男爵大倉喜八郎君、故工學博士小花冬吉君、故片岡直溫君、故男爵住友吉左衛門君、故男爵工學博士團 琢磨君、故海軍造兵中將種子田右八郎君、故男爵中村雄次郎君、故工學博士原田鎮治君、故工學博士渡邊芳太郎君並ニ物故會員ノ靈ニ告グ惟フニ諸氏ハ或ハ製鐵鋼工場ヲ創設シ其ノ發展ニ努力シ或ハ鐵鋼業ノ保護政策ヲ樹テラレ又ハ育英ニ從事シテ幾多ノ俊才ヲ社會ニ送り又直接本會ノ會務ニ從事シ又ハ多年ニ互リ會員トシテ本會ノ業務ヲ援助シ本會ノ隆盛ニ寄與セラル、等直接間接ニ本邦鐵鋼業ノ創設發展ニ對シ多大ノ貢獻ヲナセルモノニシテ吾人後進者ノ龜鑑トシテ實ニ敬慕シ感謝措ク能ハザル處ナリ今往事ヲ追想シ轉タ諸氏ヲ憶フノ情深ク且切ナリ生等不敏克ク諸氏ノ遺圖ヲ繼承シテ只過誤ナカラコトヲ恐ル奮勵努力以テ斯業ノ發展ヲ期セントス茲ニ恭シク不腆ノ儀ヲ具ヘ諸氏ノ靈ヲ祭ル諸氏在天ノ英靈庶幾クハ佑ヲ生等ニ垂レ賜ハンコトヲ。

昭和十年四月二日

社団法人日本鐵鋼協會々長 工學博士 野 田 鶴 雄

### 商 工 大 臣 の 弔 詞 (參與官代讀)

本日茲ニ我國製鐵功勞者故淺野總一郎、故大石源治、故大倉喜八郎、故小花冬吉、故片岡直溫、故住友吉左衛門、故團琢磨、故種子田右八郎、故中村雄次郎、故原田鎮治、故渡邊芳太郎、諸氏ノ追悼會ヲ舉行セラルルニ方リマシテ諸氏ガ我製鐵界ニ貢獻セラレタル功績ヲ回想シ洵ニ感慨ニ堪ヘヌモノガアリマス諸氏ハ我國製鐵業ノ基礎確立ヲ念トセラレ或ハ籌策ノ樹立ニ或ハ事業ノ經營、技術並學理ノ研究ニ刻苦精勵克ク今日ノ發達ヲ見ルニ至リマシタコトハ眞ニ諸氏ノ賜デアリマシテ其功績ハ燦トシテ永遠不朽ト申サネバナリマセン、今ヤ製鐵業ノ使命ハ時勢ノ進運ニ伴ヒ年ト共ニ重キヲ加フルノ秋ニ際シマシテ今後益々斯業ノ發展ヲ圖リ諸氏ノ遺業ヲシテ益々光輝アラシメ國運ノ隆昌ヲ期サナケレバナリマセズ茲ニ

追悼ノ誠ヲ捧ゲ其ノ功勞ニ對シ深甚ノ敬意ヲ表スル次第デアリマス。

昭和十年四月二日

商工大臣 町田 忠治

### 工學會理事長の弔詞

維時昭和十年四月二日社団法人日本鐵鋼協會ハ創立第二十周年記念式典ヲ舉行スルニ際シ製鐵事業ニ功勞アリシ故會員諸賢ノ追悼會ヲ催シ其ノ靈ヲ慰メントス寔ニ時宜ヲ得タル好舉ト謂フベシ。此ノ式典ニ臨ミ日本鐵鋼協會ヲ其ノ構成社員トスル社団法人日本工學會ヲ代表シ眞野文二謹ミテ諸賢ノ英靈ニ告グ、諸賢ガ我國製鐵事業ニ盡瘁セラレタル其ノ功績ハ極メテ顯著ニシテ夙ニ萬人ノ齊シク熟知セルトコロ實ニ斯業今日ノ發達旺盛ハ諸賢ノ賜ニ他ナラズト謂フベシ不肖本日盛典ニ列シ諸賢ノ遠大ナリシ意圖ヲ憶ヒ周密ナリシ礎石ヲ考ヘテ轉タ感謝ノ念切ナルモノアリ必ズヤ諸賢ハ斯業ノ急速ナル發展ヲ見テ會心ノ笑ヲ含マル、ナランコトヲ推察シテ敬慕ノ念更ニ厚キモノアリ、惟フニ製鐵業ノ消長ハ國運ノ進展ニ關シテ極メテ重要ナル鍵鑰タリ、今ヤ内外ノ情勢混沌トシテ容易ニ其ノ將來ヲ窺知スル能ハズ故ニ苟クモ工學及工業ニ關係スル者ハ一日ノ偷安ヲ許サザルノ秋ナリ予等日本工學會ヲ構成スル十二學會ハ俱ニ共ニ協心戮力シテ其ノ時勢ニ應ズルノ責ヲ果シ相携ヘ相率キ大ニ活躍シ斯業ノ發達充實ニ邁進シ以テ奉公ノ誠ヲ致スト共ニ諸賢ノ遺業ヲシテ益々光輝アラシメシコトヲ期ス。些カ所懷ヲ述ベテ追悼ノ辭トナス。在天ノ英靈庶幾クハ饗ケヨ。

昭和十年四月二日

社団法人日本工學會理事長 工學博士 眞野 文二

俵委員長の鄭重なる挨拶ありて壯嚴裡に終了す

### 日本鐵鋼協會晚餐會卓上演說速記

昭和 10 年 4 月 2 日 (火曜日) 午後 6 時 55 分帝國鐵道協會々館食堂にて開會

○**俄國一君** 野田會長が御病氣でありますので、私が晚餐會の座長を勤めます、講演大會に於きましては 20 數氏の貴重なる御研究の發表を戴き、又出席會員は四百六七十名にも達し、内地は申すに及ばず遠く滿洲、北海道から、斯く多數御列席を得ましたことは本協會と致しまして誠に慶びに堪へない次第であります、其の大會に於きまして例年の通り服部、俵賞金、香村賞牌等の贈呈式があり、又創立 20 周年記念祝賀式に製鐵功勞者の表彰がありました、各受領者に對しましては御同慶の至りに堪へない次第であります、又追悼會がありまして、それ等が無事完了いたしましたことに就きまして深く喜びます、製鐵功勞者表彰式及追悼會に於きまして祝詞及追悼の辭を賜りました商工大臣……商工大臣は今日は御出席になつて居られませぬが、大臣代理、又工學會理事長の眞野博士に對しまして有難くお禮申し上げます、其の外今日は招待申上しました各位に對しまして御多忙中態々御列席を頂きましたことを厚くお禮申し上げます、次に皆さんのお許を得まして例年の通り 5 分間を限りまして各方面の方々のお話を願ひたいと思ふ次第でありますから御諒承を願ひます。(拍手起る)

甚だ僭越でございますが、私から指名を致します、工學會理事長の眞野博士に一つお願いいたします。

○**眞野文二君** 甚だ突然でありまして、實は今日は祝賀式と追悼會で祝詞と追悼の辭を述べましたので私はもう責任解除されたものと存じて、喜んで安心して御馳走に出ました所が、第一に私に白羽の矢が立てられ又喋れと云ふ御命令を受けましたことは、私としては甚だ意外で當惑する次第であります、別に申述べることはありませぬが唯此鐵鋼協會が非常に隆盛に赴いたと云ふことに就てお慶びを申述べるの外ないのであります、此會に私は餘り出たことはないのです、斯う云ふ御宴會の席には今日初めて出席したやうに思ひますが、併し私は御縁故がない譯でもないのです、先程か

ら段々皆様ともお話をして居ると、私は製鐵所には古い時分には随分インテレストを持つて居つたのであります、それは和田さんが御生存中であり、又工科大学長の故渡邊君のお出での時でありまして、常に八幡の製鐵所のお話を伺ひ、又其時の製鐵所が一時困難に陥りました際に調査委員と云ふものが出来まして、私も其の調査委員の末席を汚しました、私は鐵専門ではございませぬが、あすこに矢張り機械が澤山ある所から機械の方の擔任と云ふことでございまして、故人になられました内藤政共工學士と私が機械部擔當の委員になりまして八幡へも参りましたし、又鐵鑛の出る赤谷へも出張致しました、實は今日のお祝の席に出る時に、其時分のことを考へたのであります、其時の調査委員になりました者で、生存<sup>ながら</sup>へて居る者は私一人ではないかと思ひます。其時の委員長でありました古市男爵、内藤政共君は勿論、長谷川君と謂ひ、堀田君と謂ひ、皆故人になられて居ります、私は此 20 周年記念祝賀會に席末を汚すことを得ましたのは非常に光榮と存じて居ります、命長ければ恥多しと云ふことを言ひますけれども、私は命長ければこそ今日の此御盛宴にお招を戴く光榮を有したものと存じます、之に對して厚くお禮を申し上げ併せて本會の御隆昌を祈りまして、私の責めを塞ぎます。(拍手起る)

○**俄國一君** 今日表彰せられました製鐵功勞者の御一人、河村博士に一つお願いいたします。

○**河村驍君** 今回の第 20 周年記念會に際しまして我々製鐵功勞者の列に加へられ、榮譽ある功勞賞を戴きましたことは誠に光榮の至りでございます、先程他の 3 人の方から代表してお禮を申し上げると云ふことでありますから、一同を代表しまして一應厚く皆さんにお禮を申し上げます、次に私と致しましては自ら製鐵功勞者なりとは聊かも考へて居ないのであります、縦し自分の携つた事業に於て多少の努力を致したことがあると致しましても、是は當

然爲すべきことを爲したに止りますし、加之既に過去に屬することでありますので、私としましては誠に埋木に花の咲いたやうな心持が致すのでありまして、只々感謝の念に堪へない次第であります、顧みるに、私共が製鐵事業に初めて携はりました頃は我國の製鐵事業は誠に微々たるものでありまして、所謂探長補短、何んでも外國の水準に速く達したいと云ふやうな時代でありましたので、成るべく外國の當時の新しい機械を据付けて1日も速く日本の製鐵事業を發達させたいと云ふことであつたのであります、爾後官民一同の協力當業者の努力に依りまして漸次進歩發達を見まして、已に今日は長足の進歩を來し獨立獨歩の域に達する事も餘り遠き將來ではないと思ひます、併ながら100里を行く者は99里が半ばと云ふこともありまして、單に日本の現状のみに即せず、將來の需用を考へて見ますと、私の極く内輪の計算に依りまして20年を出でずして常時の需用は(非常時の特別の増加は別と致しまして)500萬噸に達することゝ信じて居るのであります、非常時になりますれば其2割とか、3割は餘計に要るであらうと考へます、斯う云ふ目標があるのでありますから、將來まだ我鐵鋼協會の爲すべきこと、又鐵鋼協會員の努力すべきことは澤山残されて居る事と考へるのであります、どうか此次の30周年に於きましては充分なる資格ある製鐵功勞者の多數輩出されることを邦家の爲に偏に希望して已まざる次第でございます、尙ほ例年總會に於ける晩餐會の席上製鐵の時事問題とか、感想等を述べます例になつて居りますが、今夕は場合が場合でありますので之を以て御免を蒙り、最後に今夕の御招待に對して厚くお禮を申し上げます。(拍手起る)

○**俄國一君** 次に戸村さんに御願ひ致します。

○**戸村理順君** 御指名に依りまして立ちましたが、突然であるから何を申上げて宜いか分らないのであります、實は本日光輝ある香村賞牌を私が戴いたのであります、本通知を戴きまして私は實は疑つたのであります、工學博士戸村と書いてありますので是は嘘であるから、矢張り賞牌を戴く事も嘘であらうと思つて居りましたが、併し工學博士は確に嘘であつたが、香村賞を戴く事は事實であると云ふ事になりまして甚だ當惑を致したのであります。本來ならば御辭退を仕様かと迄考へて居つたのであります、是が多年我日本に於けるロープ界のバイオノーヤとして國家の爲に努力致しました東京製綱會社の功勞に對して賜はるものと致しますれば御辭退する事が出来ないと考へて、夫れで謹んで頂戴致したのであります、東京製綱會社は49年前に出來たのであります、當初何分にも日本に例のない事業であります爲に頗る困難を致しまして、一敗々々又一敗でありました茲に一敗と申しますのは前に居られます鹽田博士御得意の一杯一杯又一杯兩人對酌山花開の一杯でなく所謂やり損ないの一敗即ち失敗の事であり、就中弊社のワイヤロープ39年の経路は詰り荆棘の路と申して宜しいし、又其今日の成功は失敗の結晶であると存じて居るのであります、古人は失敗は成功の母なりと申して居りますが、實に吾人を欺かざるものと思つて居ります、今日は皇國の御威光を藉りまして南洋、亞米利加、或は濠洲等各方面に輸出を見るに至つたのであります、要するに弊社製品の眞價を認めらるゝに至つたものであると存じて居ります、而して今日の成功を見るに至ります迄の間に隠れたる大なる指導者があつたと云ふ事を忘れてはならぬのであります、大正5年であつたと記憶致しますがどうもうまくいかない、是は鋼の質から研究しなければいかぬと云ふ

事を故人になりました私共の技師長村井幸三、夫れからもう一人技師の野村卓三、此兩人から提案が御座いまして、其結果當時非常に忙しく居らせられました俵先生に無理に御願を致しまして、顯微鏡に依つて研究を始めたので御座いました、其結果今日は外國に輸出致しましても先進國の製品に對し少しも恥ぢる事のない様な事になつたのであります、今日關西方面にも幾多の同業者が御座いますが、是等は悉く東京製綱會社の流れを汲むものでありますから、單に弊社ばかりでなく、苟も日本のワイヤロープ業者は俵先生に負ふ所が甚だ多大なりと私は斷言する次第であります、茲に隠れたる功勞者に對して滿腔の敬意を表して、私の御挨拶を終ることに致します。(拍手起る)

○**俄國一君** 次に賞金を受領されました井門君に御願ひいたします。

○**井門文三君** 私甚だ借越ながら、御指命に依りまして一同に代り一言御挨拶を申し上げます。我々は多年工場に或は研究所に勤務致して居りますが今回計らずも服部賞金を戴く光榮に與りましたことは是偏に先輩諸氏並に會員各位の御指導と御援助の賜であつて茲に衷心より厚く感謝致します、而して我々は今後受賞の御主旨を體し尙一層の努力を拂ひ微力乍ら斯業の發展に貢献したいと存ずる次第であります。どうか將來も今一段の御指導と御鞭撻とを御願致して置きます、今夕は亦多數御丁重なる晩餐會に御招宴を受けまして有難うございました。

最後に私としても一言附言申上度きことは滿洲の治安も餘程維持されましたのでどしどし御視察に御出かけ下さつて啓發御指導被下様切望致す次第であります、甚だ簡単でありますが是れで失禮致します。

○**俄國一君** 名譽會員の白石さんにお願ひ致します。

○**白石元治郎君** 甚だ突然で何等用意もございませぬが、併ながら申上げぬでも相濟まぬやうな次第でございます、先づ以て淺野總一郎の遺族として御挨拶を申上ます。本人は……定めしお年を召した方は御承知のことゝ存じますが、なかなか元氣な算盤玉の高い、又事業熱の強い人でございました、鐵鋼界に對して何等か功勞ありと申しますれば、當時八幡製鐵所の外に釜石に小さな鑄鐵爐がありましたので何人も作りませぬ時代に鑄鐵爐を鶴見に拵へたと云ふこと、又皆様の御承知のないことで私が知つて居ることから考へますと、幾らか功勞の一つではないかと考へますことは、八幡製鐵所が創立以來長い間赤字ばかり出して居りましたので、先刻仰せの眞野さん等が調査委員として御研究になりました其以來長い間赤字續きでありまして、官民から非難攻撃を受けて居りました、淺野も大いに憤慨しまして、自分に委して呉れば立派に儲け仕事にして見せる、日本にもつと澤山鐵鋼が豊富になるやうにして見せると云ふことから、確か前後3回に亙りまして、歐洲戰爭の少し前まで八幡製鐵所の拂下を當局に願出たのであります。其際當時の大臣方にお願をしたことを知つて居ります。是は唯架空な意見でございませぬで、相當成算のあつたものであります、併ながら八幡製鐵所の當時の空氣は之を一人或は一會社に渡すと云ふ御趣意でありませぬので其儘になつたのであります、是は聊か製鐵所經營に對する刺戟になつたであらうかと私は考へて居ります。其外には當時としてはいろいろ抱負を持つて居たに相違ございませぬけれども、大正の末から不況の際に亙りまして自分の志を充つことが出来ず病死しまして定めし遺憾と存じて居つたと思ひます。然るに今回圖らずも鐵鋼界に對する功勞者としてお手厚なる追悼會をお舉げ下つたことは、本當に地下に於

て定めし感謝に堪へぬことゝ存じます。此段有難くお禮を申し上げます。又私個人として申し上げますのは數日前に立派な名譽會員の推薦状をお送り下つて實は驚きました。何故斯様なものが私の所へ舞込んで来たものであるか、何か理事者のお間違ではないかと考へまして、どう考へましても私は鐵鋼界に對して名譽會員として推薦を受けるやうな貢献を致して居りませぬ、何んでも本會規則第何條に依るとか云ふことが書いてありましたが、それがどう云ふものであつたか覺えませぬが、私の想像では多少鐵鋼界に功勞があつたものと解釋して居ります譯です。さう考へますと何んにも私は鐵鋼界に對して功勞はないが、唯二十年ばかり此方面に頭を突込んで居るだけのことであります、どうも其理由を解しませぬ。併し尙ほ齟つて考へて見ますと、日本の鐵鋼界と云ふものは過去から見まして著しく進歩したに相違ございませぬ。併ながら日本の現在の國情から申しまして、又將來を考へましても斯様な程度では決して満足すべきものではないのであつて、まだ數倍の隆盛を見なければならぬことゝ考へます。然るに彼は兎に角此仕事に従事して死ぬまでやるのであらうが稍々熱心の度も認められ、而して彼は年は取つたけれども、身體はまだ丈夫であるからまだ少し働けるであらう、それ故に名譽會員と云ふ名を付けて、其名に背かぬやうに勉強しろと云ふ一方便であるのぢやあるまいか、さう考へますと強ち理窟のないことでもあるまい、斯う思ひまして折角の御趣旨に副ふやうに尙ほ一層勉強いたす積りで居ります。私は八十會と云ふ會の會長を勤めて居ります。八十會と云ふのはどう云ふ譯かと申しますと、私の信念として、人間は適當の注意を加へて居れば八十までは毫確しない、人の厄介にならぬで生存の出来るものである、私も八十で死ぬと云ふのではございませぬ。それまでは元氣で毫確しないで居れると云ふことなんです、それ以上は幾ら生きても勝手ですけれども、兎に角左様なことの出来るものと、斯う考へまして、友達やなんぞに話をしますと至極面白いと云ふやうなことから、其志を同じうする者が一同寄つて會を作らうぢやないかと云ふので、何か會名を付けやうと云ふので、それを私に命ぜられまして、私は八十會と云ふ名を付けたのであります。従つてお前さんが會長になれと云ふことで只今は八十會の會長を致して居ります。其立場から致しましては八十まで生きなければならぬ、さうするとまだ十年以上は毫確をせず、人の御厄介にならぬで生存するものと考へます、其間皆様の御指導御鞭撻に依りまして、假りに名譽會員の名を授けたけれども、どうも見損ひをした、間違つたと云ふ、さう云ふ御後悔のないやうに致す覺悟で居りますので、どうぞ宜しく御鞭撻を願ひたいのであります、且つ皆さんの思召を有難く御禮申し上げます。(拍手起る)

○**俄國一君** 次にお願ひしたいのは名譽會員であられます 松方幸次郎さんが珍らしくも本夕はお見えになつて居りますから、松方さんに一つ願ひいたします。

○**松方幸次郎君** 今會長さんの仰つしやる通り此會に出たのは初めてです。實は私なんぞの名譽會員と云ふのは(會のお方は恠巧で…) 錢を出して名譽會員になつたものですから、今席お隣りの方の名譽會員とは意味が違ひます。今日は實は私は參會したならば古いお友達の知合のお方にお目通りが出来はせぬかと云ふことを楽しみにして来て、此宴會だけで御免を蒙らうと云ふ考でありました、又實際宴會より外に招待は來ませぬでした、所が私に話せと仰つしやれば、製鐵のことは私は何にも存じませぬけれども、製

鐵をしなくちやいかぬと云ふことは私親譲りの觀念であります。製鐵所が出来鐵板が造られた時分に、此鐵板はいかぬと云うて、使ひ方も少うございましたが、海軍では吳の工廠の當時小幡造船部長が非常に力を入れ、民間では多分私が力を入れて、さうして金拂が悪くて中村長官に叱られたことも何遍もある。私の製鐵に關する歴史は實は失敗の歴史でございませぬ、併し其失敗は今日皆様方からお考になれば、そんなことはなかつたらうとお考になる程度の失敗だらうと考へて居ります。例へて言へば湯がガタガタ沸いたからさあ出さうと云ふので、折角孔を明けて湯が出るやうにする引掛つて湯は出て來ない。それは大變だと云ふので、冷やすのに二三日も掛つて冷やす。それを名付けて龜の甲羅と云ふ、度々龜の甲羅が出たと云ふ状況でありました。幸に今日は少しは出ると云ふと、皆ずばらな人達が多くて、經驗のあることでせうが、途中で小便に行つたりして居る内に出なくなつた。今度は出ると言つてストッパーを明けますと、又湯がブッチブッチと音をしてレードルから出ない。私の方で最初鋼を造り始めたのは鑄物でしたが、鑄物の湯が出たぞと言つて開けて見れば鑄物に切裂があると其當時銲接法がなかつたから皆ベケとなると云ふやうなことで、もう此鋼には損の上に損をしました。又技術の足らぬことが多かつたでせうが、今度の湯は 1,600°C ありますと言ふのに、高温計で測ると 1,900°C かつたり。それはもう慣れぬことゝ云ふものは仕方がございませぬ。實は當時鋼の關係の人で詳しい人は、まあ其時の先輩顔をして居るのがこゝ(今泉君を指す)とこゝ(向井君を指す)の邊です。今泉、さうだつたね。なかなか鐵のことに詳しい人は不幸にして少なかつた。其事業自身が甚だ難儀したものであります。今日皆様の御成功を私は衷心から祝するであります。其鋼は先つき眞野先生が仰つしやつたのですが、製鐵所が出来て、宮様の御臨席になつた所でやつて見ると又鐵が出ないと云ふやうなことで、現今の若いお方はそんなことがあつたらうかと思はれる程でありませうが、皆それでやつて來ました。さうして先輩顔をして居るのはちつと恥しいことだけれども、其當時は皆知らなかつた。製鐵に關係した者は此テーブル程の人は集りはしなかつた。それは實に幼稚なものでした。其間の苦心、困難を切通してお出でになつて、日本に此事業を築かれた。成程將來二十年の後には 500 萬噸になると云ふことですが、是からの 500 萬噸は糞喰へで何んでもない。皆勉強すれば宜いのですけれども、其當時は誰も知らなくて出来なかつた。あれが奇態なものでございまして、一箇所の工場で或仕事が出来ると云ふと、それまでは何處の工場でも苦心をして居つたものが、何んとなしに隣りの工場でも出来る、それは奇態なものです。それは職工が通じ合ふのかどうか知りませぬが…それで私の所で鋼をやると云ふことを決めまして、先つきも話して笑つて居つたのですが、山崎君などが獨逸式でスクラップから出来ると云ふので鋼をやり始めて、私の所でパイトに掛けて見るとかゝらぬ。皆様方は經驗のあるえらひお方々でせうが、今日まではなかなかの苦心ぢやない。先つき仰つしやる通り一敗又一敗、私なんかは一敗又十敗でした。年百年中失敗です。今日は川崎の薄板でどう斯うと言ひますが、あれなんぞは損の上塗でした。8 時間にワンスタンドで仕上げるのが 3 噸か 3 噸半足らずと云ふやうなものでした。先年私が亞米利加でジャッジ、ゲーリーが飯を食はせるから來いと云ふ、嫌やだと言つて私は斷つた。まあさう言ふな、來て呉れと言つてセクリタリーなどが頻りに言ふので行くことにしましたが、私は日本の人が亞米

利加へ行くにジャッジ、ゲリーに必ず會はなければならぬやうに無暗に行くから、俺だけは行かないと云ふ積りで、先方も忙しいのだから行かぬと言ふと、さう言はぬで来いと云ふので引張つて行かれた。其の時に、お前の方で薄板を成功したさうだが、こつちでは 11 の會社の中漸く 4 つの會社が成功したが、能く成功したと言つて褒めて呉れた。褒められたのは嬉しいが、薄板はマーケットで 200 圓するのに、私の方のコストは 250 圓で、1 吨に付て 50 圓損をした。成功ぢやないと云ふと、それでも物が出来るのが成功だと言つて居りました。今日お集りになつたお方々の此鋼の初の時代に於て貢献された眞野先生、水谷先生、今泉先生、向井先生、又あちらには私の競争者でもあつた、親友でもある三菱の鹽田君も居られるが、是等の人々の功績と云ふものは大したものです。今故製鐵功勞者の追悼會をあなた方がなさつたと云ふことは私は誠にどうも結構なることであると思ふ。昔を忘れて、國家の爲に盡した人を思ひやり、其遺靈を慰めると云ふお考と云ふものは、誠にあなた方が學者らしい純粹の心で、謂はゞ大和魂の精髓である昔を忘れてやらぬと云ふことは後進のお方々の爲に非常な獎勵になることだらうと私は深く、今日其お話を伺つて感慨無量に堪へぬのであります。併し私のお話する所は失敗の上の失敗で来たものですから、そこは恕して下さいまして、こんなにえらさうに喋べるのだらうと云ふことでお聴き捨にならんことを希望いたします。(拍手起る)

○**俄國一君** 段々時間も進みましたが、最後に、九州の高博士にお話を願ひます。

○**高壯吉君** 私は先程俄博士からテーブルスピーチが漫談に流れて時間を浪費すると云ふ御注意がありましたが、今晚は實は、先年も此會に出席いたしまして僅かばかり漫談を試みしたのであります。本日は漫談を志願しまして、最終に時間の餘裕がありましたらやらして戴きたいと云ふ申込をした譯であります。漫談を申込むと云ふのは餘程腕前がないと出来ぬことであります。私は徳川夢聲と競争でもしやうと云ふ元氣でやつて居ります。實は鐵鋼協會としては私お話するのは案外申悪いかと思ひますが、アルミニウムと云ふことに就て、一昨年、昨年から私及ぼすながら、自分は現場を受持つてやつた譯ではございませぬが……。自分は世界のアルミナの鑛石は現在ボーキサイト以外にはどうも利用されて居ないと思ひます、日本には不幸にしてボーキサイトがありませぬ。何か利用出来るものはないかと云ふことに就て學生時代から考へて居りました。明治 30 年前でございしますが、兵庫縣に明礬石が見附かりまして、是は大變アルミニウムカリの良い原料だと云ふやうなことを學生の頭に感じたのであります、それが現在非常にアルミニウムに就て、確に採算的に工業化すると云ふことにまで本年までの経過では行つたと思ひます。併し私は現場を與つて居りませぬから餘りに細かな具體的の數字に就てはお話出来ませぬが、國産アルミニウムの漫談と云ふことに就て、5 分間ばかり御清聴を願ひたいと思ひます。此事は既に本年の議會に問題に現はれましたが、アルミニウム従價税として 2 割の關稅を掛けると云ふことが新聞に出ました。是は不幸にしていろいろ理由から……。新しいものが市場に出ますと、なかなか國産と云ふことでありましていろいろな側の反對等がありまして、非常時局の際に非常に結構なことと思ひますけれども、遂に本年の議會では通過しなかつたのであります。來年は必ず通過するものと思つて居りますが、純度としては現在出来ますものが 99.7% まで出来ると云ふことは私も工場のサンプルを貰ひまして確かめて居ます。世界の生産品が現在日本に入りますが、それが 99.3% であります。それよりも純度の高いものが出来ますことは保証いたします。鑛量としましては朝鮮にあります明礬石が現在分つて

居ります鑛量だけで 2,000 萬吨、昨年の暮に總督府で發表されましたのはもう少し以上 2,500 萬吨位の數字が出て居ります。又極く最近になりまして東京に近い伊豆半島に同じ明礬石が見附かりまして、其物は私は山を見て居りませぬが、桂博士、若林博士等が御視察になつて、私も今度實地調査をやつて見たいと思つて居ります。さう云ふ明礬石がアルミニウムの段々實用化すると云ふことに刺戟を受けて世の中に出て来たかと云ふことは非常に國家の爲に慶賀に堪へないと思つて居ります。日本にないとしたアルミニウムはもう確かに純度の高いそれだけのものが出来て、工業化するにも採算が取れると云ふことになつて、そこへ以て來て副産のカリと云ふものが採れる譯でありまして、それに従價關稅の 2 割を掛けて事業を奨励すると云ふことは實に當を得た政策であると思つて居ります。其政策が今年の議會に通らなかつたことは残念に思ひますが、來年は確に通過するものと考へます。日本の肥料として實に不足を感じました硫酸安母尼亞も世界のカルテル。トラストの威赫を受けましたけれども、遂に現在では立派な國産品の硫酸が出来ると云ふことになりまして、既に合成肥料になりまして輸出が可能になつた位であります。それ以上困難でありました鐵の如きが支那、南洋方面にいろいろ形の變つた物になつて輸出されると云ふことになつて、私も及ぼすながら明治 30 年から製鐵に關係上、實に今昔の感に堪へないのであります。實に今になりましては皆さんの御努力が非常に成功を齎らしたものとと思ひます、アルミニウムと鐵と鐵鋼協會としてはどうも大分縁の遠いものぢやないかと云ふやうなことも私も考へますが、併し此日本人の潔癖の性質と云ふことから申しますと、我々の家庭の如きも知らぬ間に白銀の鍋とか釜とか餘り持ちも能くないながらいつの間にか來て居る、斯う云ふ點に於きまして日本は現在アルミニウムは 1 箇年に 1 萬吨少し位の消費でありますけれども、或程度は、安く出来れば、今お話ししたやうに非常に豊富でございまして、カリとアルミニウムは充分國産で出来ます。是は鐵鋼協會の會員の方々がお骨折あつて然るべきかと思ひます。さうしますれば是は鐵の領分に幾らかは這入つて來るかも知れませぬが、鐵の大きな領分に對してアルミニウムの侵入するものは僅かなものであります。さうして日本がアルミニウムを輸出の可能にまで安く出来まして、さうして南洋、支那其外に出し、又遙に歐羅巴或は亞米利加にも現在の日本人の優秀な技術的の奮闘に依りますれば不可能ではないと考へます。軟い白い金屬であります、是も或意味から言うとアルミニウムスチールと云ふやうなことを言つて宜いかも知れませぬが、アルミニウムとニッケル、鐵の合金のやうなものがなかなか優秀なマグネットになるとか、又研究の如何に依りましてはアルミニウムもなかなか又工業品として今まで未開拓の種々の効果があると云ふやうな合金も出来るのぢやないかと考へます。アルミニウムと云ふことは將來餘程まだ發展の餘地があるのぢやないかと思ひます。餘り時間も長引きますから是で御免を蒙ります。(拍手起る)

○**俄國一君** 是で私のお話をしやうと思ひました方々にはお話を頂きました、どなたかお話を致さるゝ方がありましたら此の際に願ひます。……別におありになりませぬやうですから、最後に眞野博士にお願ひいたしまして協會の爲に乾杯を致したいと思ひます。

○**眞野文二君** 僭越でございしますが、杯を舉げて、當協會の隆盛を祈りたいと思ひます。

〔乾杯〕

○**俄國一君** さう致しますと是で本日の晩餐會を終ります、どうも皆さん有難うございました。(拍手起る)

午後 7 時 45 分散會